2019 年度　北海道経済学会シンポジウム

食・農・コミュニティの視点から とらえる北海道観光の近未来

日時：2019 年 10 月 19 日（土）14：00 ～ 17：00（13：30 開場）

場所：北海道武蔵女子短期大学　3 号館 321 教室

参加費：無料

プログラム

講演（14：05 ～ 15：25）

「北海道観光の現状と課題について」

吉地　望　（北海道武蔵女子短期大学）

「ニセコスキー観光の特色ー食とコミュニティによる変化を中心としてー」

菊地　達夫（北翔大学）

「観光は皆を幸せにするか」

松木　靖　（北海道武蔵女子短期大学）

「北海道の移民文化とその観光資源としての可能性」

齋藤　貴之（北海道武蔵女子短期大学）

パネルディスカッション（15：35 ～ 16：55）

・コーディネイター　吉地

・パネリスト　菊地・松木・齋藤

北海道経済の近未来を考える上で、農業に代表される農林水産業と観光業は不可欠な存在であり、今後も基幹産業として北海道経済を持続的に発展させる役割を期待されている。観光業は訪日外国人旅行者の大幅な伸びを受け、今後も持続的な成長が見込まれている。その一方で北海道観光は、沖縄県と比べると日本人国内観光客の旅行期間、リピート率が低いという課題を抱えている。北海道に多く見られる大規模宿泊施設においてツーリスト同士のふれ合いやホストとのふれ合いが少ないことがその原因の一つと考えられている。観光業の発展にとってインバウンドの増大が重要であることは間違いない。しかし、日本人国内観光客という視点も忘れてはならない。リピートを生む小規模施設はその地域のコミュニティと密接な関連を持つため、観光を考える上で、コミュニティという視点を持つことも重要である。観光にはコミュニティに正の影響だけではなく、負の影響を与える力が内在していることを確認しつつ、道外からの移住者によって作られた北海道のコミュニティ（町村よりも更に小さな集落レベル）に伝わる母村の食文化等を新たな観光資源として、母村の地域に住む人々にアピールすることで、観光客を増やすことはできないであろうか。この活動は、住民自身のコミュニティに対する理解度を高め、地域に対する愛着を深めることにつながり、社会的動態による人口減少の抑制と雇用増大につながる可能性がある。これらの仮説について議論しつつ、北海道観光の近未来を考えていきたい。

主催：北海道経済学会

当番校：北海道武蔵女子短期大学

〒001-0022　札幌市北区北 22 条西 13 丁目

TEL：011-726-3141　FAX：011-726-3144

email: kichij@hmjc.ac.jp

交通アクセス詳細は以下より確認